

令和2年度 自己評価報告書

令和 3年 4月 20日

学校法人 修道幼稚園

修道こども園

1. 本園の教育・保育目標

- ・心身ともに健康で、明るく伸び伸びとした、元気いっぱいの子どもたちを育てたい
 - ・自主性と個性を大切にして、それぞれの子どもたちの発達に合わせた教育・保育を行い、心身ともに豊かな子供たちを育てたい。
 - ・友達と仲良く遊び、自然や命の大切さを教えたい。
 - ・当たり前のことが出来るようになってほしい。
- 世界に飛び出せる心を育てたい。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

認定こども園教育要領の改訂を踏まえ、一人一人の幼児を大切にされた質の高い教育・保育の実践を目指す。

3. 評価目標の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	B	幼児の姿や遊びの記録をもとに、教職員が定期的に話し合い、狙いや内容に見直しを行った。
2	教育の質向上のために、園内研修を充実させる	A	写真やエピソードを通じて幼児の育ちを語り合う研修を毎月実施した。その結果、幼児理解が深まり、同僚性も育まれた。
3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する	A	特別支援専任教員を配置し、家庭や関係機関との連携を図り、個別の指導計画を作成した。

評価 (A:十分に成果があった B:成果があった C:少しあった D:成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	3つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、一人一人の幼児を大切にされた質の高い幼児教育を実践することができた。

評価 (A:十分に成果があった B:成果があった C:少しあった D:成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	環境	園内の環境について話し合い、園児の発達に沿った環境構成に取り組む。
2	安全管理	緊急事態に備えて、危機管理マニュアル等を教職員間で理解し、意識向上に努める。 緊急事態に備えて、衛生用品の備蓄、緊急食糧の備蓄に備える。
3	幼少の接続	小学校と連絡を密にし、ともに学ぶ機会を持つ。 ICTを利用して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有して教育の接続を図る。

評価委員 青木 衛 上村 祐子 長谷川 安二

※新型コロナウイルス感染防止のため、文書にて評価を行った。

学校法 人修道幼稚園

理事長 大熊 信行